

<b>事業所名</b>	<b>グループホーム いやしの家 福吉町</b> (クリックすると事業者の情報にリンクします)
<b>日付</b>	平成19年 3月30日
<b>評価機関名</b>	<b>㈲東京リーガルマインド</b> (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
<b>評価調査員</b>	A:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士 B:現職 生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、介護福祉士2級、介護支援専門員
<b>自主評価結果を見る</b>	(事業者の自主評価結果にリンクします)
<b>評価項目の内容を見る</b>	(評価項目にリンクします)
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
<b>記述項目</b>	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b> ・法人の共通理念は、『1、基本的人権の保護 2、家庭的な生活 3、生き甲斐のある生活』である。 ・管理者は、ゆったりとした家庭的なホームを目指している。そのためには、まず職員同士が信頼し合い和やかな雰囲気を作り、入居者にはできることはしていただき、その方の現実を否定せず、本来の良さを引き出すことをモットーとしている。 ・入居者のちょっとした変化にも気づく専門的な目を培い、日頃のバイタルチェックや顔色で重大な病気の前触れを察知できるような介護の目を育てていきたいと考えている。 ・管理者や職員は、ずっと独居で家族背景の稀薄な入居者が多いということもあり、ホーム全体が家族であるという思いが強い。入居者の心身の状態を少しでも良くしようという管理者と職員の努力により、入居者の介護度が良くなるなどの成果が現れている。		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
<b>記述項目</b>	<b>入居者が落ち着いて生活できるような空間づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b> ・広いウッドデッキでお茶を飲んでのんびりと語り、目の前には花壇や菜園、風に揺れている洗濯物などが鑑賞される光景が広がっており、落ち着ける。こんな家に住んでみたいと思わせる雰囲気があり、リビングのソファやダイニングでくつろぐ方々も、寄り添い充足された面持ちであった。 ・医療との連携や高いケアの意識に見守られた「安心」があり、入居者一人ひとりの孤独感を癒していただけるゆとりがある。職員は、「新しい家族」作りへ情熱を持って取り組んでいる。 ・入居者も職員も共に家族であるとの考えのもと、アットホームな家庭作りを構築している。 ・入居者夫々の以前の生活を基に、何事も強制せず個人を尊重する精神で関わっている。一人で居たい、他の人と離れていても皆の空気には触れていたい、誰かと話をしたりお茶を飲んだりしたい等、その時々々の思いを察知してさりげなくそっと援助している。		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
<b>全体を通して特に良いと思われる点など(記述)</b> ・岡山市の南部、岡南大橋や児島湾に程近い閑静な住宅地の一角にホームはある。何と云っても住宅環境が良く、隣には福島南公園があり、広い公園内には地区の老人会の方などがゲートボールを楽しみ、公園内にある福祉会館では様々な催しがある。また、春には桜の名所ともなり、ホームの底さながらである。 ・洋風2階建ての洒落な外観に加え、リビングから繋がるウッドデッキ、前庭にある菜園には早朝の陽光が降り注ぎ、穏やかな雰囲気をもたらしている。また、玄関を一段入りとラタンの花壇ワゴンや樽を利用した装飾が迎えてくれ、随所に行き届いた空間作りからも余裕のあるケアの様子がうかがえる。 ・管理者及び職員は、入居されている方の大半が家族がいちしゃらないという状況の中、ともしば孤独に陥りやすい入居者の心身両面へのケアに取り組み、成果を上げている。 ・管理者は職員の介護の質を高めるため、「日常的な気づきを確実にする」ということを基本に考え、日常のあらゆる場面で指導している。また、介護の専門職としての資格を取るための支援を行い、スキルアップに向けても意欲的に取り組んでいる。
<b>特に改善の余地があると思われる点(記述)</b> ・ノーマライゼーションの精神、防災の観点からも地域との連携は欠かせない。日頃から近隣との交流は行われているが、運営推進会議が未だ実現していないのは残念である。日頃の努力を生かして、地域との密着をより確実に進めていっていただきたい。

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
<b>記述項目</b>	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b> ・入居者個々の置かれた状況を踏まえ、傷つけないよう配慮しながら言葉かけ、「ホーム全体が家族」という思いで入居者と関わりを持つよう心がけている。バックグラウンドが分かり難い方には、話の中で少しずつ収集するように努めている。 ・その人にあった日課ができるようと考えて支援している。外が好きな人は日に何度も畑や散歩に出掛け、細かい作業が得意な方にはドアプレートを作ってもらい、その他にも自宅で手芸をされる方、新聞を自分で用意して紙で切っている方もおられた。 ・信仰も大切にしており、日曜礼拝の援助をしたり個別に宗教の話を聞くなど、今まで大切にしてきたことについて思いを共有していくようにしている。		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
<b>記述項目</b>	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b> ・すぐ前のお宅に火事があった際、いち早く駆けつけ、消火への手助けのほか、罹災されたお宅の人命救助の一助をされたという。ただ、その際、入居者が誰一人目を覚まさなかったことで避難訓練の方法や近隣との連携について危機感を覚え、より具体的に実際に即した避難の方法を考えていきたいとしている。 ・感染対策にも力を入れており、手洗いやうがい、口腔ケアを小まめに実践し、今年は入居者・職員共、風邪やインフルエンザに罹らなかった。また、ノロウイルス対策についても、より具体的な対処方法のマニュアルなどが完備されている。 ・職員のほとんどが介護の専門職を目指しており、介護福祉士の資格取得率が高い。また、管理者は資格が取れるように支援し、職員のモチベーションを高めている。 ・リスクマネジメントの研修を生かし、危険個所の点検などを含め「個人マップ」を作成して事故が起こらないような取り組みを始めている。ヒヤリハットなどは、カンファレンスを行って検討し、結果なども含めて職員に周知徹底するような仕組みがある。		